



公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 第 25 回全国児童水辺の風景画コンテスト
農林水産大臣賞 「修繕中」
兵庫県明石市立二見西小学校 5 年 吉岡 楓矢さん

CONTENTS

磯焼け対策の取組状況について「磯焼け対策全国協議会」	2
	漁港漁場整備部 整備課
大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) の年次会合の結果について	4
	資源管理部 国際課
コラム～職員食堂を活用して三省庁連携により福島県の水産物を PR しました	7
回遊魚	7
	仙台漁業調整事務所長 中奥 龍也
平成 25 年 11 月分のプレスリリース	8

磯焼け対策の取組状況について「磯焼け対策全国協議会」

漁港漁場整備部 整備課

1. 開催の概要

11月5日（火）と11月6日（水）の両日、農林水産省7階講堂にて「磯焼け対策全国協議会」を開催しました。

今年度の当協議会は、磯焼け対策に取り組む漁業者、民間団体、大学、都道府県など全国から多くの関係者が集まり、

- ①沿岸藻場・磯焼けを取り巻く状況の変化
- ②近年の藻場の動向
- ③磯焼け対策に関連した研究開発の状況
- ④藻場の保全（磯焼け対策）の取組

の4つをテーマに、各地で検討・実施される調査研究、技術開発、対策等について意見交換を行い、効果的かつ効率的な磯焼け対策に向けた取組の強化を図りました。



2. 本年度の発表

協議会の最初の東京海洋大学藤田大介准教授による基調講演では、「沿岸藻場・磯焼けを取り巻く状況の変化」と題し、全国沿岸の藻場の分布と衰退の状況や藻場回復の優良事例が続出しているなど対策が進んでいること、対策を進める上で担い手の確保・育成など「人づくり」、地域に適した手法の確保「技づくり」が重要であること、磯焼け対策に取り組む担い手やダイバー等の減少など残された課題について講演がありました。

水産庁からは、近年の藻場の動向について全国の都道府県に対するアンケート調査結果として、前回調査（H17）に比べ

①全国の藻場の衰退

回復している沿岸がある一方で、衰退している沿岸も見られるなど増減している。

②藻場の衰退要因

衰退している地域における藻場の衰退要因については、ウニや魚類などが主な要因であり、大きな変化は無かった。

③植食性魚類の分布

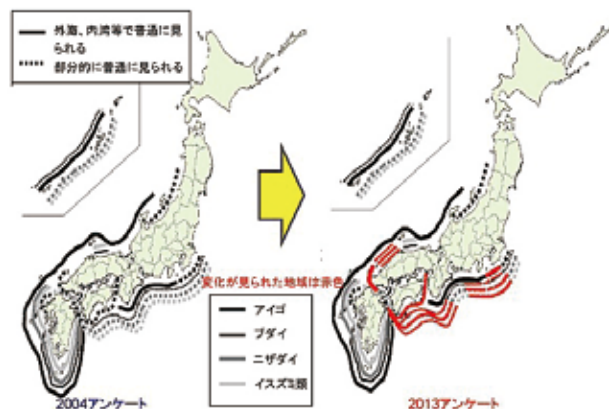
アイゴやイスズミなど、海藻を食べる植食魚類の分布の状況については、太平洋側では九州北部から千葉県まで、日本海側では、福岡県沿岸から島根県まで北上している状況。

④植食性魚類による藻場の衰退予想

数地区において、深刻になりそうな地域が増えている状況。

などの回答が得られたことを紹介しました。

植食性魚類の分布



<植食性魚類が北上（赤色），水産庁整備課調べ>

また、西海区水産研究所吉村グループ長による報告では、九州山口沿岸において、平年より海面水温が2℃以上高く、海藻（カジメ類）がダメージを受け大量に流失した状況、宮城県気仙沼水産試験場日下副主任研究員による報告では、宮城県北部沿岸域における藻場が、濃密に繁茂していることが認められ、アワビ、ウニの餌場として回復傾向にあると考えられる状況などの紹介がありました。



葉の色が薄く、正中線に向かって巻くアラメ
茎部が白化し倒れたカジメ類(2013.8.26-27)



大量のアラメ・カジメ類の寄り藻(上)
茎の基部で切離した個体が多い(下)
(2013.9.4)



付着器のみ残るカジメ類(2013.9.10)

＜水温が高く海藻が大規模に流失＞

続いて技術開発の途中報告として、水産工学研究所桑原生物環境グループ長による「刺し網によるノトイズズミの漁獲」では、藻場衰退の要因であるイズズミが水温15℃以下になると、ブロックなどの隙間に蝸集する特性があることを突き止め、一度に大量に駆除する手法を開発できたことの報告がありました。



＜植食性魚類の漁獲技術開発＞
(水産生物の生活史に対応した漁場環境形成推進事業：水産庁)

施肥に関する研究・実証として、北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場栗林研究主任による「北海道における施肥と藻場再生」では、栄養塩添加による藻場再生効果の検証の結果、窒素態栄養塩の添加により、ホソメコンブの成長を促進する効果があることが判明したことなどの報告がありました。

藻場保全（磯焼け対策）の取組事例として、大分県名護屋地区藻場保全活動組織吉田副代表による「豊かな藻場を子供たちに受け継ごう！」と題した報告では、地元小学生と一緒に母藻の投入の取組により、藻場が回復している事例、鹿児島県阿久根市松永主事による「ウニの管理で海藻の森を！」と題した報告では、ウニ駆除及びその有効利用の取組により藻場が回復した事例など、地域の小中学生等と一緒に取組について紹介がありました。



＜小学生と共に磯焼け対策（名護屋地区）＞

静岡県水産振興課吉田班長による報告では、地域水産物供給基盤整備事業により実施した藻礁ブロック設置と食害生物の駆除により、カジメ藻場が復元した事例、また、長崎県水産部漁港漁場課岡部係長から、特定漁港漁場整備事業による藻場ブロックの設置やウニ類や植食性魚類等の駆除、航空写真を活用した藻場マップの作成など、現在の取組の紹介がありました。

3. おわりに

磯焼け現象は、多くの要因が複雑に絡み合い、確実な解決方法が見出しにくい場合が多く、各地域においては、現状調査の実施による磯焼け原因・要因の特定から、要因を除去・緩和する取組が進められています。

今回の磯焼け対策全国協議会で報告があったように、近年では、各地での地道な取組や研究が実を結び見事に藻場を回復させた事例が報告されるなど藻場が回復している地域があります。

今後も全国の磯焼け対策に携わる関係者との情報交換を行い、藻場の回復に努力して参ります。

大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）の年次会合の結果について

資源管理部 国際課

はじめに

大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）は、大西洋における高度回遊性魚種（マグロ、カツオ及びカジキ類）の保存管理を目的とする地域漁業管理機関であり、年に一度の本委員会会合を開催して保存管理措置を決定しています。加盟国・地域は、日本、米国、カナダ、ブラジル、中国、南アフリカ及びEU等の47加盟国・地域です。

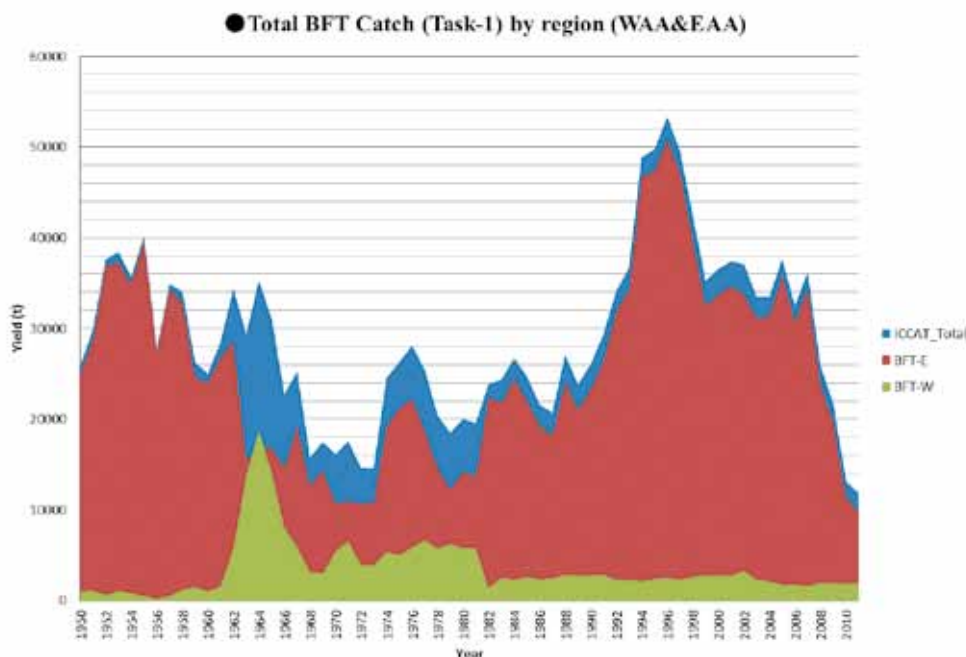
2013年11月18日から25日まで、ケープタウン（南アフリカ）において2013年ICCAT年次会合が開催されたところ、我が国からは、宮原水産庁次長（政府代表・委員会議長）をはじめ、水産庁、外務省、経済産業省、独立行政法人水産総合研究センター及び漁業関係団体の関係者が出席しました。なお、本会合の主な結果に関しては次のとおりです。

I. 魚種別の保存管理措置

調査統計常設委員会（SCRS）の管理勧告に基づき、2013年以降の魚種別の保存管理措置として、漁獲可能量（TAC：Total Allowable Catch）等が次のとおり決定されました。

1. クロマグロ

- (1) 昨年の年次会合において、微増ながらも500トンのTAC増加することに合意した東大西洋・地中海クロマグロ資源については、2013年TACが13,400トン（対前年同）、日本の割当量は1,139.55トン（対前年同）に設定されました。なお、来年のSCRSにおいて、資源評価を更新して、2015年以降のTACが設定されることが予定されています。
- (2) 西大西洋クロマグロ資源については、2013年TACが1,750トン（対前年同）、日本の割当量は301.64トン（対前年同）に設定されました。なお、来年7月に作業部会を開催し、資源評価方法を改善するための科学調査計画を策定することが予定されています。



＜●大西洋クロマグロの東・西操業区域別の漁獲量の推移＞

2. メカジキ

- (1) 北大西洋メカジキ資源については、2014年から2016年のTACが年間15,000トン（対前年同）、日本の割当量は年間901トン（対前年同）に設定されました。なお、過去の過剰漁獲に対するペナルティとして日本に課されていた8%のオブザーバーカバレッジが、通常の5%に戻されました。
- (2) 南大西洋メカジキ資源については、2014年から2016年のTACが年間13,700トン（対前年同）、日本の割当量は年間842トン（対前年同）に設定されました。また、新たに南大西洋メカジキの漁獲量を400トンまで北大西洋メカジキに付け替えることができる特例が日本に認められました。

3. ビンナガ

- (1) 北大西洋ビンナガ資源については、2014年から2016年までのTACが年間28,000トン（対前年同）に設定されました。日本の漁獲量については、これまでと同様に、大西洋全域のメバチ漁獲の4%以下に抑制することが規定されました。また、今後新たに資源が一定レベル以下になった場合に自動的により厳しい管理措置を発動するという新たな管理枠組みを導入するべきかどうかについては、他の魚種の保存管理措置にも影響を及ぼす可能性があることから、研究者・行政官合同会合を開催して、今後その内容を詳細に協議することが合意されました。

- (2) 南大西洋ビンナガ資源については、2014年から2016年までのTACが年間24,000トンに設定されました。日本については、これまでの北緯5度以南のメバチ漁獲の4%以下に抑制する努力義務から、新たに1,355トンの割当量が設定されました。

II. その他の保存管理措置

(1) クロマグロ漁獲証明制度の電子化

クロマグロの漁獲証明制度の電子化については、システム開発における技術的問題が残っていることから、現在の紙から電子化への移行期限を2015年2月末まで1年間延長することとし、その間、システムの試行を継続すること等を内容とする新たな勧告を採択しました。

(2) メバチの統計証明書制度の改正

我が方は、現行のメバチ統計証明書制度の対象から除外されているまき網・竿つりによる漁獲物や生鮮製品を制度の対象とする提案を行いました。ガーナ等からEUのIUU漁業規則に基づく輸出証明書（漁獲証明書）に代わりうるものでなければ新たな義務は受け入れられないとの意見が出されたため、合意に至らず、来年の作業部会において引き続き検討されることとなりました。

III. その他の事項

(1) 協力的非加盟国に関する要請とそのレビュー

ボリビアが新たに協力的非加盟国として認定され、コロンビアは操業の実績もなく、ICCATへの正式な回答もないことから協力的非加盟国の地位を喪失しました。

(2) 任期満了に伴い、宮原水産庁次長（日本）が本委員会議長から退任し、新たな議長として、ステファン・デピュピュレ局長（EU）が選出されました。なお、日本はクロマグロの保存管理措置を議論する小委員会（パネル2）の議長ポストを獲得しました。

(3) 次回の年次会合は、2014年11月にEUメンバー国（イタリアが有力）において開催が予定されています。

おわりに

大西洋クロマグロについては、近年、漁獲枠の削減など、保存管理措置が強化されてきたところです。このような取り組みの結果として資源の回復傾向が見られており、昨年、年次会合において、東資源のTACを微増ながらも500トン増加することに合意しました。しかしながら、今年の年次会合においては、来年の資源の再評価を控え、現状維持とすべきとの慎重な決定になりました。

我が国としては、世界有数のマグロの漁業国・消費国として、資源の持続的利用の実現のためリーダーシップを発揮しつつ、来年の資源評価を受けてTACと日本の割当量が増加するよう対応していきます。



年次会合の議場写真



コラム 職員食堂を活用して三省庁連携により福島県の水産物をPRしました

平成25年11月25日(月)から29日(金)に、農林水産省、経済産業省、厚生労働省の三省の職員食堂において、福島県沖の試験操業で漁獲されたヤナギダコを使用した特別メニューを提供し、福島県の水産物をPRしました。

これは、福島県沖の試験操業が再開されたことを踏まえ、東京電力福島第一原子力発電所の影響により風評被害を受ける可能性のある水産物に対する正確な理解の促進を図るために行ったものです。

農林水産省では、二つの食堂において、「野菜とタコの炊き合わせ定食」(第一食堂)と「ヤナギダコのトマト煮膳」(咲くら)とが、期間中、特別メニューとしてそれぞれ提供されましたが、ともに連日完売する程の人気だったそうです。



野菜とタコの炊き合わせ定食



ヤナギダコのトマト煮膳



ポスター

回遊魚

仙台あるある

寒くなりましたね。仙台に赴任してようやく8ヶ月が過ぎました。そこで、仙台ビギナーの私がちょっと気になった「仙台あるある」をご紹介します。

①エスカレーターあるある

エスカレーターに乗るとき、東京式は左側に立って右側を空ける、大阪式は逆に右側に立って左側を空けるのが暗黙のルールとなっています。それでは仙台はどうか。仙台は、ある時は右、ある時は左、またある時は左右ばらばらだったり、決まったルールはないようです。私は、前の人に合わせることにしました。ところが、先日、某関西系スーパーのエスカレーター、前に誰もいないので東京式で乗っていたところ、ふと振り返ると後の人はみんな大阪式の右立ちで並んでいたのです。何故?ひょっとして関西系のお店だからでしょうか? ちょっと恥ずかしかったです。

②牛タンあるある

仙台の名物と言えば「牛タン」。牛タン専門店もたくさんあります。それでは、仙台の人はさぞかしよく牛タンを食べに行くのかと思いきや、周りの人に聞くと、「そんなに食べに行かないよ」「お客さんが来れば一緒に行くけど」といった声が意外に多いのです。確かに、お昼の定食としてはちょっと高目だし、私も仙台に来てから一回食べに行っただけです。それでいて、皆さん、老舗の「〇助」が美味しいとか、やっぱり「〇久」が好きだとか、たまにしか行かない分、牛タンのお店や味には結構こだわりがあるようです。

③はらこ飯あるある

「はらこ飯」は、仙台の南、亘理町の郷土料理です。阿武隈川の河口でたくさん獲れる鮭の切り身を醤油味の出汁で煮て、その出汁で炊いたご飯の上に切り身とイクラ(はらこ)をのせたもので、伊達政宗公にも献上されたと伝えられています。9月になると、「今年もはらこ飯が始まりました」というニュースが新聞やテレビに流れ、スーパーの魚売り場に「はらこ飯セット」なるものが大量に並び、はらこ飯の人気投票などもあって大いに盛り上がります。しかし、実はこの辺りの鮭漁の盛期は例年10月後半、まだ1ヶ月以上も先の話です。阿武隈川に鮭が帰ってくるまで待ってられないということのようですが、どうしても阿武隈川の鮭ではらこ飯が食べたいという人は11月に食べてください。

以上、「仙台あるある」如何でしたか。そんなことは知っていたという方にはすいません。まだまだ仙台ビギナーですので、これからも身近な「あるある」を探求していきます。



仙台漁業調整
事務所長
なかおく たつや
中奥 龍也

発表年月日	発表事項名	担当課
H25.11.1	「日・キリバス漁業協議」の開催について	国際課
H25.11.1	「南極の海洋生物資源の保存に関する委員会 (CCAMLR) 第 32 回 年次会合」の結果について	国際課
H25.11.5	「第 22 回 日本海・九州西広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H25.11.8	大型クラゲの出現状況（国際フェリー調査結果等）について	漁場資源課
H25.11.8	「北方四島周辺水域における日本漁船の操業に関する協定」に基づく日口政府間協議及び民間交渉の開催について	国際課
H25.11.11	「日・キリバス漁業協議」の結果について	国際課
H25.11.13	「北方四島周辺水域における日本漁船の操業に関する協定」に基づく日口政府間協議及び民間交渉の結果について	国際課
H25.11.14	「大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) 第 23 回 通常会合（年次会合）」の開催について	国際課
H25.11.15	「日・ミクロネシア漁業協議」の開催について	国際課
H25.11.18	「水産政策審議会 第 47 回 企画部会」の開催及び一般傍聴について	企画課
H25.11.18	「水産政策審議会第 63 回資源管理分科会」の開催及び一般傍聴について	漁政課
H25.11.20	職員食堂を活用した三省庁連携による福島県の水産物の PR について	加工流通課 漁業調整課
H25.11.22	林農林水産大臣の国内出張について	企画課 国際課
H25.11.22	「日口漁業委員会 第 30 回 会議」の開催について	国際課
H25.11.25	「日・ミクロネシア漁業協議」の結果について	国際課
H25.11.26	「大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) 第 23 回 通常会合」の結果について	国際課
H25.11.26	平成 25 年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報	漁場資源課
H25.11.29	「中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC) 第 10 回年次会合」の開催について	国際課

編集後記 “窓辺のカーテン”

平成 25 年 12 月 4 日、ユネスコ無形文化遺産代表一覧表に、「和食：日本人の伝統的な食文化」の登録が決定しました。このことは、日本人としてたいへん誇りに感じます。和食は、地域でとれるお米、魚、野菜などの自然の食材が用いられ、「自然を尊重する」日本人の食文化が認められたとことです。水産物消費の減少が続いている現状にあって、我々も今般の登録を励みに、伝統的に受け継がれてきた魚食の復権のため取り組んで参ります。

「漁政の窓」では、皆様に水産施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

ご意見やご質問がありましたら、以下にお願いいたします。

水産庁施策情報誌 **漁政の窓**

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111 (内線6505)

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>